

駿河湾漁海況情報ネットワークシステム構築

(予算区分 受託 研究期間 平成31～令和3年度)

担当：資源海洋科 小林憲一

【研究の背景とねらい】

- ・駿河湾で漁獲されるシラスとサクラエビは、シラス船曳網漁業は西伊豆沿岸を除く駿河湾全域、サクラエビ船曳網漁業は湾奥部（沼津沖）から湾西部（相良沖）が主漁場です。
- ・シラス船曳網漁業は、作業時間の大半を魚群探索に費やしており、作業効率の向上が課題です。また、サクラエビ船曳網漁業は、漁業者全員で水揚金額を均等に配分する「総プール制」の下で作業し、過度な漁獲競争を回避する資源管理を行っていますが、平成21年以降の漁獲量は低いレベルで推移しており、早い資源回復が求められています。
- ・そこで、漁場位置毎の魚群量を基に資源量（現存量）を把握することで、シラス船曳網漁業では作業の効率化、サクラエビ船曳網漁業では資源量の推定に取り組みます。
- ・すでに先行研究でシラス漁船とサクラエビ漁船にGPS（位置情報）と魚群探知機データ（魚群情報）を陸上のサーバーに送信、蓄積するシステムを構築済みであることから、このシステムで得られるデータを活用します。
- ・さらに、シラス漁場の特定に必要な水温分布情報を漁業者に提供するため、駿河湾奥部で作業するシラス漁船に水温計を取り付け、水温情報を配信するシステムを構築します。

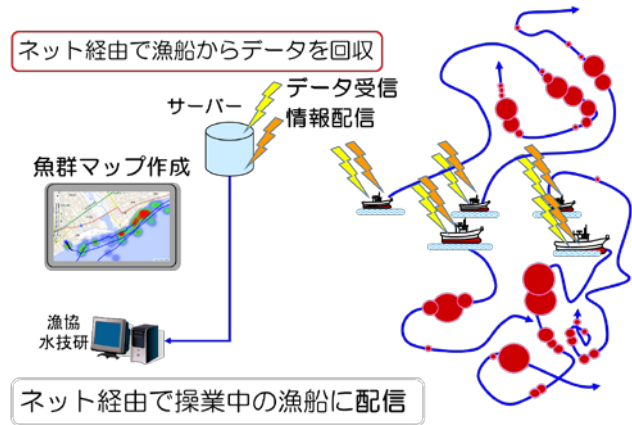


図 システムの構成イメージ

【期待される効果】

- ・シラス船曳網漁業では、システムで得られたデータを基に魚群位置と魚群密度を基にした作業形態（通常の個別作業、プール作業）の選択基準を明確にすることで、作業効率の向上が期待できます。
- ・サクラエビ漁業では、システムで得られたデータからの資源量の推定が可能となり、資源増減の把握が可能となります。

【年次計画】

細目課題	31年度	R2年度	R3年度
○サクラエビ漁業情報データの収集 ・水揚量、作業隻数、魚群探知機と位置情報データ収集	○	○	○
○シラス漁業情報データの収集 ・水揚量、作業隻数、作業海域データ収集 ・作業形態の選択支援情報の提供 ・駿河湾奥部における水温情報の収集	○	○ ○	○ ○

(作成 平成31年4月)